相模海軍工廠経緯

大正12年4月	海軍技術研究所が東京築地に設立
9月	関東大震災で被災
昭和 5年	海軍技術研究所が目黒に移転。 ・ 平塚海軍火薬廠の用地の一部割愛を受けて海軍技術研究所平塚出張所を開設し、第二科（化学兵器研究室）は平塚に移転。本格的な化学兵器の研究、技術開発、製造を開始。
昭和 8年	海軍技術研究所平塚出張所に特薬製造実験工場等の建設。 ・ １号特薬催涙剤、２号特薬くしゃみ剤、３号特薬ただれ剤（イペリット、ルイサイト）兵器の製造実験工場
昭和 9年	第二科（化学兵器研究室）は化学研究部に昇格、独立。 ・化学研究部（毒ガスや防毒マスク、発煙兵器の研究製造） 第一科～第五科…理化学、医学、研究関係。（第二科は化学兵器の医学的効果とその治療。実験用小動物飼育、硝子実験房を設備し特薬兵器の効力試験、化兵病理及び治療の研究） 第六科～第八科…造修関係
昭和12年	化学研究部の隣接民有地を買収し特薬庫、爆発円筒、特種化兵研究室等を建築。
昭和16年12月	第二次世界大戦の開始
昭和18年 5月	化学兵器及び火工兵器の本格的な量産を目的に、海軍技術研究所化学研究部を母体として相模海軍工廠を設立。 相模海軍工廠寒川本廠の他に化学実験部（相模海軍工廠平塚工場）を海軍技術研究所に置き、海軍技術研究所を引き続き使用。 【寒川本廠の造修部】 第一火工部（第一～第三工場）…イペリット爆弾や焼夷弾などの攻撃兵器を製造、充填、爆弾組立。 ・資料「相模海軍工廠」によるｲﾍﾟﾘｯﾄ等保有状況(昭和20.9.9現在)単位:トン

	イペリット	ルイサイト	クシャミ剤	催涙剤
寒川本廠	42,250	0	23,850	1,000
平塚工場	100	6,525	72,800	0

・資料「相模海軍工廠」による生産数量(単位:トン) 上表と相違があり過ぎる

	昭和16年	昭和17年	昭和18年	昭和19年	昭和20年	総 計
イペリット	30	80	200	190	0	500
ルイサイト	5	5	5	5	0	20
クシャミ剤	30	50	40	0	0	120
催 涙 剤	20	20	40	40	0	120

※イペリットの生産量は米国ﾒﾘｰﾗﾝﾄﾞ州国立公文書館の所蔵資料と一致する。
※イペリットの年間製造量はﾜｼﾝﾄﾝの米国立公文書館の資料にある、昭和17年以前で30トン、昭和19年190トンと一致する。

第二火工部（第十一工場～第十二工場）…防毒衣、防毒面等の防禦兵器製造

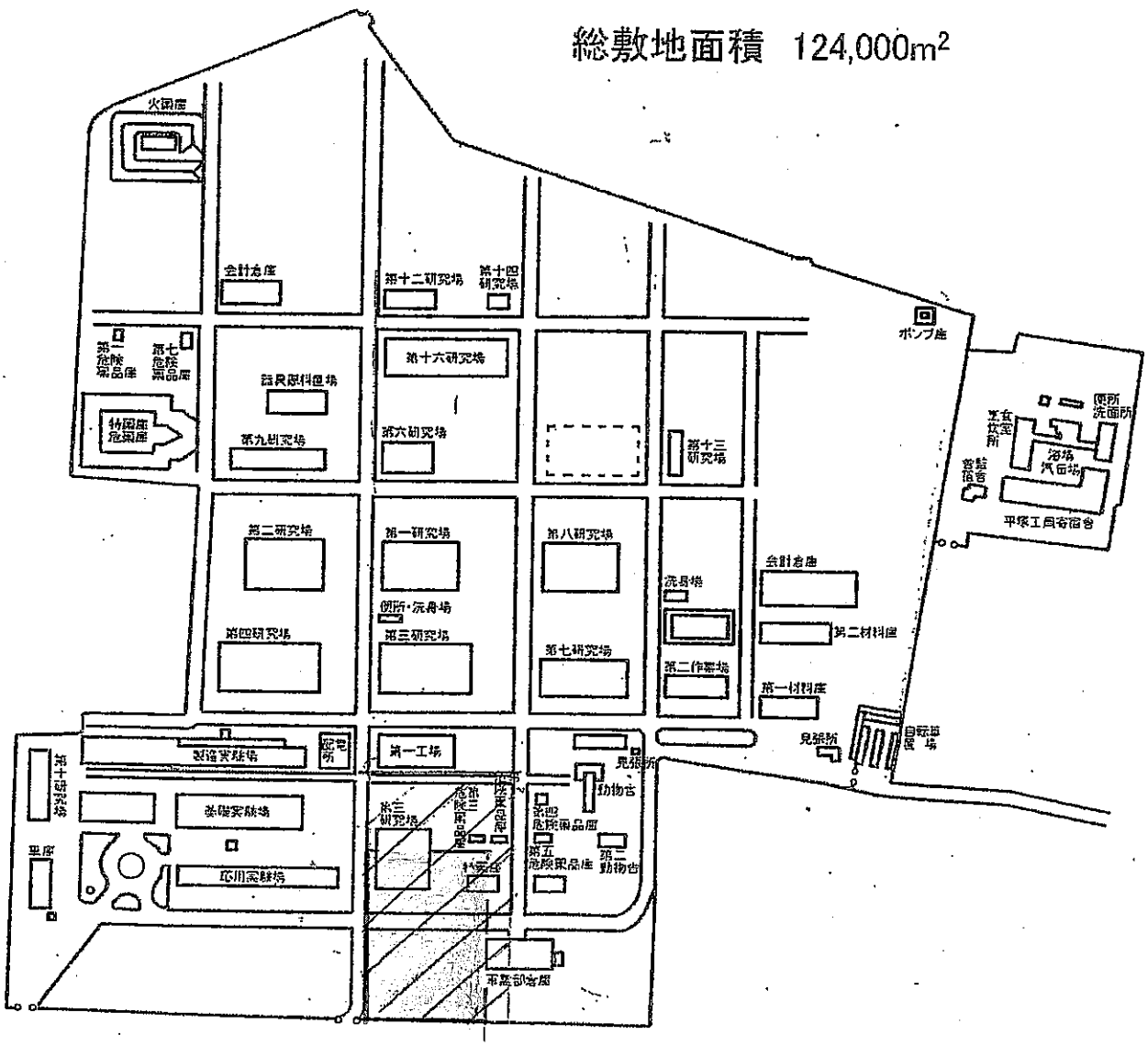
【平塚工場】化学実験部、第二火工部第十三工場（防毒ﾏｽｸ、除毒剤、毒ｶﾞｽ探知機等の製造）。

「相模海軍工廠」によると、ルイサイトはイペリットに比べ性能が劣っていたことから、実験のために必要な生産が行われたのみであった。

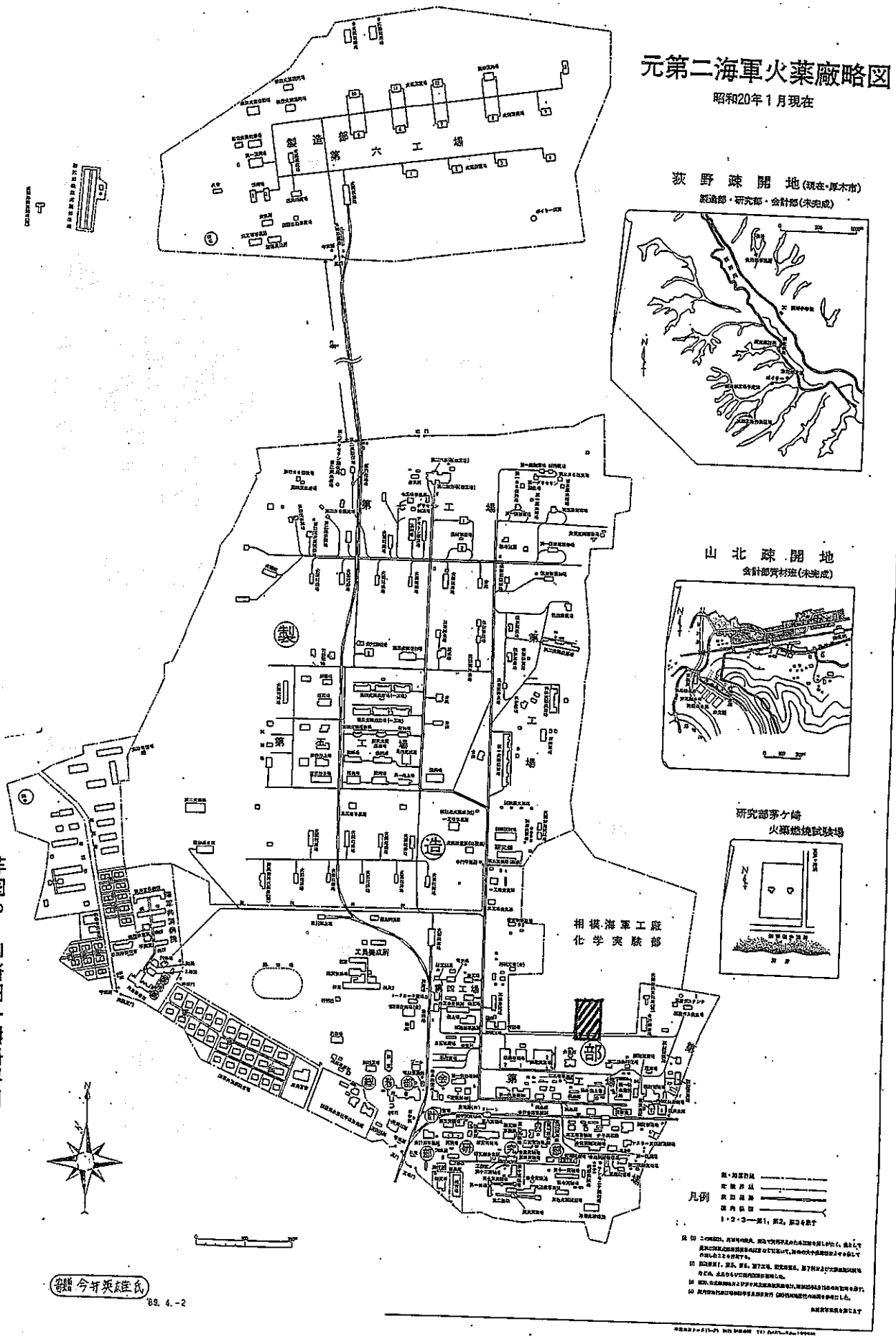
上記表のように、ルイサイトは昭和16～20年までの生産総計は20ﾄﾝであるが、昭和20年9月9日現在の平塚工場の保有状況は6,525ﾄﾝで矛盾がある。

相模海軍工廠平塚工場建物配置図

総敷地面積　124,000m²



ガス障害者証言集より



湘南企画作成

地図２：元海軍火薬廠略図　Ｓ＝１／８，０００
（昭和２０年１月）

現況重ね図１（元海軍火薬廠略図）　Ｓ＝１／８，０００